



第一薬科大学後援会 広域支部総会報告

広域支部長 東江 正史

令和6年9月1日（日）ホテルクリオコートにて第一薬科大学後援会、広域支部総会が開催されました。広域支部会員は51名いますが、参加者は会員4名、学生2名、薬学部長、後援会会長、事務局の総勢10名という少し寂しい総会となりました。参加者が少ない原因として「広域であるため参加が難しいのではないか」という声があり、来年度は出張開催を検討するのも一案という意見が出ました。

総会では、支部長より、後援会活動として支部総会の開催や国試対策・実習対策支援、大学が主催する勉強会に対する支援等が行われている事が報告され、今後も会員の理解と協力をお願いしたいとありました。また、次年度の支部長や代議員の挨拶があり、大学の発展と学生の充実した生活を広域支部として支えていくことが求められました。

続いて中原薬学部長による講演が行われ、内容としては、1～3年次では基礎学力の定着をしっかりと行うこと、4年次のCBT体験受験では各個人が60%以上の正答率を確保することが重要であり、60%未満～45%以上の方は気を緩めてしまいがちで注意が必要である、5年次では8年分の過去問を動画視聴も活用しながらクリアすること、6年次は例年通り卒業試験、国家試験への対応となっています。特に6年次になってからの行動では遅く、早期に行動しやる気を出すことが大切であることが述べられました。学校側も国家試験合格に向けてさまざまな工夫をしていることが伺えました。講演後には質疑応答の時間が設けられました、質疑項目を要約列挙します。

質疑応答

- ・既卒生への模擬試験、国家試験等の案内、資料提供方法について
案内は在学生に対しては行われています、国家試験等の資料は登録住所宛に郵送しています、不明な点がある場合は電話で大学に問い合わせてください。
- ・大学入学志願者減少に対する対策について
少子化により全国的に志願者が減少している現状がありますが、大学としてはオープンキャンパスの開催に力を入れ、高等学校へ出向いてのアナウンスや、指定校特待生制度の変更も含めた案内もおこなってまいります。
- ・勉強会への受講率が悪いとのことですが、全員強制受講させたらどうか
他大学では受講料を授業料に含めて全員受講させるという事例もあるが、受講

料が掛かるため、学校側としての強制受講は難しい状況です。

その後、場所を移動し、中原薬学部長を囲んで食事をしながらの懇親会が行われ、和やかな雰囲気の中で会話も弾みました。最後に後援会会長 泉様の挨拶をもって終了しました。

今後も後援会の活動が充実し、大学と学生の発展に寄与することを期待しながら、引き続きのご支援とご協力をお願い申し上げます。

